

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

3072号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



春の息吹

コラム

自治体職員の副業と人事評価

東京大学名誉教授 **大森 彌**

地方公務員法第30条は「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当つては、全力を挙げてこれに専念しなければならぬ」と、職務の根本基準を定めている。第38条は「職員は、任命権者の許可を受けなければ、商業、工業又は金融業その他営利を目的とする私企業(略)を営むことを目的とする会社その他の団体の役員その他の人事委員会規則(略)で定める地位を兼ね、若しくは自ら営利企業を営み、又は報酬を得ていかなる事業若しくは事務にも従事してはならない」と規定している。

模農業、家業の手伝いなど公務に支障を来さないことを条件に兼業が許可されている事例はある。

しかし、一般には、これまでは、公務員たる者、いついかなる時でも営利活動に関わってはいけないという強いイメージが広く浸透していたため、副業を考える職員は少なかつたといえる。これ以外にも、信用失墜行為の禁止、守秘義務、職務専念の義務などが課されており、公務員は国民からの信頼を失ってはいけない、これを危うくする副業は原則禁止という扱いとなってきた。

ところが、積極的に副業を認めようという動きが出てきた。2018年11月、宮崎県新富町は、神戸市や奈良県生駒市に次いで、町職員が勤務時間外に地域貢献などの活動へ参加することを後押ししようと、職員の副業許可基準を明確化した内規の運用を始めた。副業が可能なのは、在職1年以上の一般職員で、

休日や勤務時間外での従事に限り、役場での業務に支障がないことが条件となっており、町内での活動に限定され、スポーツ少年団の指導者や高齢者の買い物支援に取り組むNPO法

人、(伝統行事の手伝い等を想定し、給与とは別に報酬を得て副業に従事することを認める)としている。小嶋崇嗣新富町長は「役場の職員は地域の人材の宝庫であり、積極的の声を上げてほしい」と語っている。人手不足で困っている地域の団体や活動に職員が参加することで地域活性化につながればという期待もある。

職員の副業許可は、勤務時間外、休日及び休日における活動であり、本務の遂行に支障がないこと、あるいは本務を疎かにしないことが条件である。それを何によって証拠立てるのか。副業が面白くて本業に身が入らなくなり、副業で精神的・肉体的な疲れが出て本業に支障が出てくるようでは困る。副業許可を出すに当たっては、本業に支障がなく疎かにされないことを確かめる手段をどうするか。ひとまず、現に行われている人事評価を活用することが考えられる。

人事評価は、職員がその職務を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた業績を適切に把握したうえで行うことになっており、その評価の結果を任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用するものとするものになっている。

例えば、副業開始予定日の直前の人事評価について、業績(目標達成度)評価においては前2回、能力(職務行動)評価においては前1回の評価が、ともにB以上であることを副業許可の条件の一つにするのである。人事評価では、一般にSABCDの5段階が使われているが、Bは中位(普通、並み)である。人事評価がB未満の職員で副業を希望するのであれば、まず、人事評価をB以上にあげてからということになる。職員に対し、給与とは別に報酬を得る副業を認めるには、少なくとも人事評価で普通以上の評価を得られているような職員でなければ住民の理解は得られないと思うがどうだろうか。

もくじ

- 論 説 持続可能な社会とは何か ～農山漁村の役割を考える～ (後編)
特定非営利活動法人ECOPLUS代表理事 高野 孝子…(2)
早稲田大学文学学術院教授、立教大学客員教授
- フォーラム 地域の未来を繋ぐよさのみらい大学=京都府与謝野町 ……(6)
- 情 報 町村ご当地キャラじまん ……(10)
- 随 想 歴史と文化が薫る湘南発祥のまち～さあ、大磯で君の物語をはじめよう～
…………… 神奈川県大磯町長 中崎 久雄…(11)

写真募集

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、図書カード(3千円)を差し上げます。写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部

視 点

持続可能な社会とは何か

農山漁村の役割を考える (後編)

特定非営利活動法人ECOPPLUS代表理事
早稲田大学文学学術院教授、立教大学客員教授

高野 孝子

新しい豊かさ

人が真に欲するもの。それはモノではないのかもしれない。

持続可能な社会づくりのためには、人々の価値観の転換が必要、とよく言われてきた。先人たちの努力のおかげで今は基本的に、自分が生きたい場所で、やりたい仕事をする事が可能になった。それは自分のチョイスであり、どこでどう生きるかは価値観に基づく。

人は何のために生きるのか。食べ物や水といった、物理的に必要なものの充足は前提だが、人が真に欲するものは何か。

前編(3071号掲載)で潮田が変わった、と書いたのは、「モノ」や「貨幣」ではないものを求める若い人たちを見ているからだ。

東京で育ち英国で修士号を取り、マーケティングリサーチの会社に勤務していたKさんは、仕事は刺激的

でもらえたそうで、そのことを嬉しそうに話す姿は、とても誇らしげだった。

だったというが、それが社会の中でどんな意味をもつのか、何か腑に落ちない思いがあり、第一子が生まれたことをきっかけに生き方を考え直した。食べ物や人の豊かさや幸せにつながっていると確信し、自ら人々の活力になる食べ物を作りたいと、愛媛県大三島に家族で移住。数年かかって、地元のみかんから独自に撰った天然酵母を使ったパンを作る職人になった。手間と時間がかかり、わずかな量しか作れないという。収入は減ったし、立ったままで体にはきつい仕事だそうだが、とても楽しく、満ち足りて幸福だと話す。母親が病に倒れた際には、体にいい材料を使い、病気回復の願いをこめたパンを自分の手で作り、それを食べ

Aさんは岐阜県境に位置する福井県池田町で育った。人口2、600人、高齢化率43%の山村だ。Aさんは小学生の頃から「何にもない」この町が嫌で、「大きくなったら絶対出てやる」と思っていたという。そして実際、京都に行って働き始めると「あれ、ここも何にもない」と気づく。むしろ「池田町にあるもの」の価値が見えてきた。そして今は池田町に戻り、いくつかの仕事を引き受けながら夫婦で暮らしている。お年寄りからは活躍を期待する言葉をかけられ、山での猟もこなす。

大型ショッピングモール、ゲームセンターや映画館、遊園地などの遊び場やスポーツセンターなどのこと。一方、京都で気づいた「何もない」は、Aさんが大事だと思っていたもの。推測ではあるが美しい山河や田んぼの光景、自然からの幸、人々の近さと優しさなどではないだろうか。都市部では命がどう支えられているのが見えにくい。何かあった時には自立できない脆弱さがあり、農山漁村で地に足をつけて暮らしていた者からすれば不安だらけの環境だ。

上記二人とも、自分にとって大切なことを見出している。自分の幸せは何であるかを見据え、一人は未知の環境に移って新しい仕事を作り、

一人は慣れた町で暮らしを組み立てている。彼らが欲する豊かさは、金で交換できるものではない。そして彼らの志向の先には、持続可能な社

論 説

会がある。

農山漁村には、新しい豊かさがあ
る。これまでもずっとあったのだが、
消費の豊かさが満たされてきた時代
の先に、改めて確認する新しさだ。
消費社会とは異質の歓びと幸福。そ
れに気づくかどうか、それを幸せと
感じるかどうか、これが一人一人の
価値観に関わってくる。時代の中で
変化すると同時に、農山漁村が働き
かけることができる部分だ。持続可
能な社会を求める上ではぜひ働きか
けてほしい、それが今必要とされて
いると私は思っている。

農山漁村と持続可能性

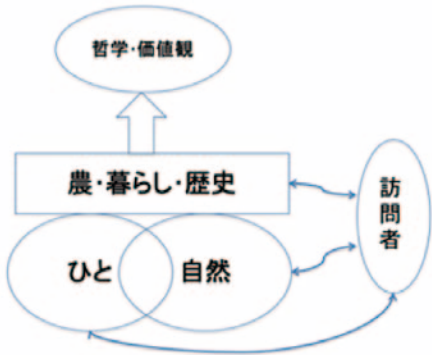
農山漁村は学びの宝庫だ。自然に
近く仕事をしたり、暮らしてきた人
たちはたくましく、自然と共に生き
る知恵や技を持っている。彼らの哲
学や知恵には、持続可能な社会を現
現するためのヒントがたくさんある。
何よりも、価値観に触れる大切な教
えがある。

私は代表を務めるNPO法人のプ
ログラムを、南魚沼市の農山村で30
年近く実施してきた。学ばせて
もらうばかりだったが、2007年
からは、「学び」を交流人口の増加や、
暮らす人たちの喜びや誇りなど、地

域づくりに活かす目的での事業も実
施してきた。大学の実習という形で
も、各地の農山漁村を訪問させても
らっている。若い人たちにはそこで
の経験を通して、価値観を問い直し
たり、これからの社会づくりに大切
なことに気づいたりして欲しいと願
う。

2010年には、農山村の教育力
を研究する調査を行った。農山村で
の1泊2日のプログラムを4回実施
し、村の外からの来訪参加者と受け
入れ地元住民らを対象にアンケート
と聞き取りを行い、分析した。

その結果、農山村に息づく「人々」
と「暮らし」には大きな教育的価値
があることが明らかになった。来訪
者の学びは、「ひと」と「自然」、お
よびそれらが重なる部分に分類でき
た。それらが「農・暮らし・歴史」



に関する学びの土台になっており、
そこから「哲学・価値観」にまでつ
ながっていた。(※図参照)つまり、
わずか1泊2日でも、参加者の価値
観の変容につながりうるということ
だ。プログラム後の行動と意識には、
「環境を考慮したライフスタイル」
や「食についての意識変化」が見ら
れ、持続可能な社会づくりに関連す
るコメントが多くあった。

受け入れ住民の方も、自分たちに
ついての見方を新たにすることがわ
かった。60歳代以下の人たちは、集
落や環境についての知識をさらに学
びたいという意欲を示した。来訪者
と一緒に活動することが、自分たち
が暮らす地域への興味をかきたて
るきっかけとなった。

ここ何年か、大学の演習として南
魚沼市の栃窪集落におじゃましてい
る。栃窪は標高550mほどの山地
に広がる棚田の集落で、2018年
5月時点での住民は約150人50世
帯で、高齢化率は約40%だ。

6月に1泊2日で、田んぼの草取
りを中心に体を動かし、農村の今や、
農業をめぐる政策について現場の人
たちから話を聞いた。このわずかな
時間の体験で、学生たちはとても多
くのことを学び、価値観に触れる機
会を持った。

いくつか、彼らの声を記してみる。
「私がこの実習でももったのは、
農村の方が「足るを知る」生活を送
ることができる可能性が高いという
ことである。自分で作るからこそ、
食料の有限性を知っている。都会に
暮らしていると、農業をしている人
がいるということが遠く感じられ、
どこでも積まれた食料を見てお金を
払えば無限に得ることができると
と考えやすい。それゆえに本当に必
要な物でなくてもあらゆるビジネス
の広告に踊らされ、終わりのない消
費行動に明け暮れるのである。」

「豊かさの捉え方に変化はあった
かという問いについて、私はびっく
りするくらい変わりました。実習前
はお金≡価値のあるもの、幸せ、豊
かさという考えがありました。が、実
習を通してお金で買えないもの(自
然や人とのつながりなど)への価値
や豊かさに気付かされたと同時に、
幸せな生き方ってなんだろうと考
えるきっかけにもなりました。」

わずかな時間であっても、都市で
生まれ育った若い世代が農山村に触
れることの意義を読み取ることがで
きる。またこの演習をきっかけに、
サステナビリティ分野での専攻を決
めたものは多く、2年経ってから、
この演習を通して「自然に対して考



高野 孝子 (たかの たかこ)

エジンバラ大学Ph.D (野外・環境教育)、ケンブリッジ大学M.Phil (環境と開発)、早稲田大学政治学修士。サステナビリティ、野外・環境教育、地域社会学、分野横断的な環境学を専門とする。

新潟県在住。ジャパンタイムズ報道部記者を経てフリーランスに。90年代初めから「人と自然と異文化」をテーマに、犬ぞりとカヌーによる北極海横断やマイクロネシアの孤島での自らの活動を環境教育の素材とするプログラムを地球規模で展開。「地域に根ざした教育」の重要性と「農山村は学びの宝庫」を訴え、07年より新潟県で「TAPPO南魚沼やまとくらの学校」事業を開始。2010年7月公開の龍村仁監督「地球交響曲第7番」に、アンドルー・ワイル博士らとともに出演。社会貢献活動に献身する女性7名に向けた「オメガアワード2002」受賞(緒方貞子、吉永小百合、中村桂子などと共に)。2016年春期早稲田大学ティーチングアワード受賞、2017年ジャパンアウトドアリーダーズアワード(JOLA)特別賞。著書に「野外で変わる子どもたち」(情報センター出版局)、「PBE地域に根ざした教育: 持続可能な社会づくりへの試み」(海象社)ほか多数。

日本学術会議KLaSiCa小委員会委員、新潟県環境審議会委員、千代田区地球温暖化対策推進懇談会委員、日本キャンプ協会理事、日本環境教育フォーラム理事、財団法人日本アウトワード・パウンド協会評議員、日本自然保護協会参与など

え直すことや身近なところでの社会問題等により関心を持つことにつながりました」と書いてきた者もいる。20歳前後に深く体験したことは、その後の人生や価値観を左右する可能性がある。これから様々な影響を受け続けるとしても、彼らのように農山村に触れた経験を持ち、持続可能性を一度でも意識した人たちが、今後様々な職業に就くことは、日本の未来にとってプラスだと思う。

農山漁村の強み

国境を越えた競争と格差の社会では、弱者は切り捨てられがちだ。農山村の地域では歴史的に、飢饉の際や、何かで金策が必要な人がいた

際に、支え合う仕組みを持って全体で生き延びてきた。農山漁村の人々は都会にはない地縁血縁のしがらみの中で、だからこそ培われる許容力や信頼感、安定感を持っている。人と人が、ある種の距離感を保ちつつも、近しい信頼関係で結ばれ助け合っているのが地域だ。それが安全保障であり、豊かさでもある。

地域には身体性がある。自分が食べるものを自分で作ったり、顔が見える人たちが家から見える場所で作ってくれたものを食べたりする。水や森林、浄化される空気など、自分を物理的に支えてくれるものが全部身近にある。その身近さが身体性であり、身体性を伴って関係を築いている場所が自分のアイデンティ

ティを構成することになる。土地との乖離や身体性の欠如という、グローバルゼーションの負の部分、農山漁村では回復することができる。これはつまり「生の実感」につながるものだ。

現代の課題であるエネルギーや水、廃棄物処理において、化石燃料を使い大規模化する都市型の持続不可能な仕組みではなく、創意工夫をしながら、そこならではの小さな循環を作る試みが農山漁村でできないだろうか。衣食住、全てにおいて循環型、自立型を目指すのは、農山村だからこそその優位性やとっかかりもあるだろう。

都市はグローバル経済だけで動いている。破綻したら全く機能しない

リスクがある。農山漁村には、グローバル経済だけでなくローカル経済もある。自然や生態系とバランスを取りながらの、持続可能な循環型経済価値だ。人や自然との関係性で成り立ち、関わるほど無限大の豊かさを享受できる。自然とつまく共生することで、安全で健康な暮らしを実現しやすい。このもう一つの経済を現代理流に作り直すことも、農山漁村や自治体が今からできることではないだろうか。

それは未来に向けて、意味あるものを創造しようということだ。そうしたことに胸躍る人たちが集まれば「世界に通用する競争力」にもなるかもしれない。ただし、それはこれまでのグローバルマネージメントにおける競争ではない。異なる指標を持つものだ。何より農山漁村はその現場を持っている。

希望に向けて

農山漁村の価値や意義は、多くの人たちが様々に語っている。そして農山漁村に暮らす人たちはその価値を分かっている。なのになぜ、い

論 説

またに言い続けなくてはならないのか。

地球社会全体が生き延びるために、もっと多くの人たちの価値観の転換が必要だからだ。直接的で深い体験が、最も心に響く。だから語り続け、体験の場を作り続けなくてはならない。

とは言え、その場にしっかりと暮らしがあることが前提だ。

集落は関係性で成り立っていて、「暮らし」は自分のことだけでは済まされない。家族に加えて、地域の作業があり、かつ地域の課題解決にも役割を期待される。草刈りなどの協働作業やゴミなどの衛生環境、農業に携わるなら自分の山や水のことも考えなくてはいけない。実に様々な責任がある。

場所や時間、人々と関係性を持って地域に暮らし出すというのは、そうした「場所への責任」を受け入れる覚悟を持っているということだ。その覚悟を自然体で受け止めつつ、自然と近く暮らし、共に生きる知恵と技を身につけた高齢者たちは、真に魅力的だ。

農山漁村に暮らし出すことの本質的な歓びを、豊かさや幸福として感じる価値観が育つ機会を作っていくかなくてはならない。集落での暮らしは引

き受ける覚悟を伴うもので、若手にはその覚悟は一見重すぎるかもしれない。けれども、実際に暮らし、見えてくれば不安はなくなるものだ。

本論の前半、人と社会の持続可能性には、「希望」と「コミュニティのつながり」が大切と書いた。

希望を持っている限り、農山漁村は続いていく。そして農山漁村にある幸せや喜びに気づいてやってくる人たちも、希望となるだろう。すでにそうした価値観を持っている若い人たちは少なくない。丁寧に暮らし、その価値、そうしたものへの憧れを持つ人たちも増えている。

都市中心で大量消費をするだけだった日本社会を、持続可能な社会に変革する場として、日本各地の農山漁村が持つ力をぜひ発揮して欲しいと願う。

◎ 町村週報ご購読のご案内 ◎

「町村週報」を毎月ご自宅や職場にお届けいたします。ご購入を希望される方は、はがき、FAXまたはEメール (kouhou@zck.or.jp) にて、全国町村会広報部までお申し込み下さい。

★年間購読料1、500円(送料込み)

★請求書を送付いたしますので、折り返しお振り込み下さい。

車両共済(保険)のご案内 (一般自動車保険の車両保険)

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆さまなら!

- 無事故による割引で新規から **43%(保険料)割引**
 - ・ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去3年無事故の場合は、ノンフリート等級9等級からスタートします。
- 集団扱年一括払による割引でさらに **5%割引**
 - 保険料分割払(12回)も選択可能です。
 - ・保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の5%割引の適用はありません。

このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

※この車両共済(保険)をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)
 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
 ●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください
 (受付時間: 祝日、年末年始を除く月~金 午前9時30分~午後5時)
TEL 0120-731-087
FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
- 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社

ドローン使用により撮影した加悦谷平野

現地レポート

町村独自のまちづくり



地域の未来を繋ぐ
よさのみらい大学

京都府 与謝野町

与謝野町の概要

与謝野町は、総面積108.38km²の範囲に約2万1千人が暮らしており、南北約20kmの間に町並みや集落が連なる、住民の顔が見え、住民の声を聞くことができる、まごまり良い地域です。大江山連峰をはじめとする山並みに抱かれ、野田川流域に広がる肥沃な平野から、天橋立を望む阿蘇海へ流れるように続く景観は、四季折々に美しい姿を作り出します。春は新緑、夏はひまわり、秋は黄金色の稲穂と紅葉、冬には季節風の「つらこし」による雪と、季節毎で味わいある自然美が堪能できます。

日本海に面した丹後半島の尾根を背に、南は福知山市、東は宮津市、北は京丹後市、西は兵庫県豊岡市に接し、国道176号、178号、312号の

結節点であり、交通の要所です。京都市から北西へ約80kmに位置し、京都縦貫自動車道、山陰近畿自動車道を利用し、京都市内からも車で約1時間30分の距離にあり、季節に応じて都市部からも多くの方が遊びに訪れます。

与謝野町の誕生は、平成18年3月1日にさかのぼります。旧加悦町、旧岩滝町、旧野田川町が合併し発足した町で、町名は与謝蕪村、与謝野島子など文人ゆかりの地であることに由来します。丹後半島の基部に位置することで、古代より大陸から渡来した文化や文物などが、この地を経由して近畿中央部へ向かったといわれます。その結果、わが国最多の管玉を出土した日吉ヶ丘貼石墓（国史跡）や、2000年前前に鉄加工をしていた日吉ヶ丘遺跡（国史跡）、ガラス釧（腕輪）や多数の銅釧などを出土した大風呂南墳墓群があります。さらに、日本海三大古墳の一つ



フォーラム



▲日本遺産認定を受けた「ちりめん街道」

である蛭子山古墳(国史跡)があり、古代ヤマト政権との強い関係をつかかわせる地域です。中世には、「丹後精好」と呼ばれる武士の袴地に使用する厚手の絹織物が特産となります。近世の享保7年には、山本屋佐兵衛、手米屋小右衛門、木綿屋八右衛門が、西陣からちりめんの製織技術を導入したことで、「撰糸」と呼ばれる薄手の絹織物業が一気に広がり「丹後ちりめん」発展の礎を築きました。

このように、本町は日本海と内陸地帯を結ぶ地として、古代には鉄生産、中世からは絹織物が繁栄し、「丹後ちりめん」の主要産地として栄えてきました。これらの文化や歴史を後世に伝える「ちりめん街道」は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成29年4月に「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」として、宮津市・京丹後市・伊根町の有形・無形文化財とともに日本遺産に認定されました。近年では、近海で取れる魚のアラと町内の豆腐工場から出るおからを主原料とする、100%天然素材の有機質肥料「京のまめっこ」を製造し、自然循環農業の推進により、米や農作物のブランド力の引き上げをおこなっています。



誇れる文化と産業のある本町ですが、課題もたくさんあります。平成12年に1万3631人だった町内就業者数が、平成27年には1万1132人となり、これに足並みを合わせるように事業所数も減少し、地場産業は衰退の一途をたどっています。さらに、団塊世代が75歳となる平成37年には三人一人が65歳以上の高齢化地域となり、団塊ジュニア世代が75歳となる平成54年頃には、さらに少人数の若者によって多数の高齢者を支えなければならぬ超高齢化地域になります。

このような人口減少と少子高齢化による問題は、本町だけが直面しているもの(わけ)ではありませんが、人手不足による経済規模の縮小や空き家問題などにより、町財政を圧迫し、地方自治そのものの維持が厳しくなることが想定されています。これらの課題は、一人で解決できるもの、多くの方が関わり解決できるもの、また行政でなければ難しいものなど多岐にわたります。そこで本町は、これらの課題を解決し未来へとつなげていくために「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を持ち、的確に対応していくための「まちづくりの設計図」として、第二次与謝野町総合計画を平成30年に策定しました。



▲住民を交え実施された、第二次総合計画策定会議の様子

策定にあたり、縮小傾向を示す地域でも、人と地域が輝き、老若男女がイキイキと暮らせる「未来志向」によるまちづくりとして、その基本理念に3つの「み」を掲げました。「みんな」の手を進めるまちづくり。将来世代のための「みらい」志向のまちづくり。実現に向けた動きが「みえる」まちづくり。この3つの「み」をキーワードに、住民と行政がそれぞれの役割を理解し、共有することを基礎としています。具体的には、自分で行うことは自分でする「自助」、地域で行うことは地域とする「共助」、行政が行う「公助」、そして企業・事業所の地域貢献である「商助」です。これらの「助」がそれぞれに補完し合い、協働していく環境づくりが、現在の人たちが未来の人のためにおこなう「まちづくり」としてあります。



▲総合計画策定までの経過を随時案内する「与謝野みらい新聞」と住民主導により総合計画を理解してもらうことを目的として制作された第二次総合計画の別冊

フォーラム

人つくりは与謝野つくり
YOSANO STYLE
地方創生

今後、日本全体で人口減少が進むことが予測されるなか、本町では人口減少を前提として、この課題にどう対応するべきかを念頭においた戦略的なまちづくりをおこなっています。これまでの行政主導によるまちづくりではなく、住民や本町に関わりを持つ人を「町の財産」と考え、互いに新しい価値を生み出すパートナーとなることが、町を持続可能にする新たな可能性と考えています。このことは、地方創生における地方版総合戦略において、最も重要なものが「ひと」であり、次いで「しごと」と、「まち・ひと・しごと」で

はなく、優先的に取り組むべき対象順に「ひと・しごと・まち」に並び替えた、「与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略」にまとめています。

しかし、人つくりを優先とする本町には大学などの教育機関がありません。そのため、日常生活において高いレベルの教養を身に付ける機会が限定的でした。そこで、住民が広いテーマで高度な内容を学ぶことができるリベラルアーツ事業を、総合戦略策定前の平成27年度に開始しました。事業は、大学等で教鞭をとる方を講師招聘するアカデミックな内容で好評を得ていました。しかし、総合戦略策定とともに、これまでよりも本町の未来を担う人に対し、訴求するテーマや内容を提供し

ていくべきとして再考しました。

総合戦略では、有機質肥料「京のまめっこ」を活用した自然循環農業の推進とともに、6次産業化を見据えたホップなどの作物の栽培を推進する「まめっこプロジェクト」。与謝野町の美しい自然環境が生み出す水を活用し、真の意味での地ビール醸造を可能とする環境づくりの「クラフトビール醸造プロジェクト」。本町を代表する基幹産業の絹織物業を、養蚕の段階から管理することで織物業全体の可能性を広げる「シルクプロジェクト」。天橋立の内海「阿蘇海周辺」を、本町の魅力を体感できるエリアに再構成する「阿蘇ハイエリアプロジェクト」。加えて、これらのプロジェクトを「みえるまち」



▶ 町外からの参加者も多い与謝野ホップ収穫体験



みえるまち

▶ 与謝野ブランド戦略推進の象徴としてデザインされたロゴマーク



▶ 総務省「公共施設オープン・リノベーション推進事業」により、キッチン・ラボを含むコワーキングスペースとして生まれ変わった「産業創出交流センター」は、よさのみらい大学の講座会場として数多く利用しています



よさのみらい大学

▶ よさのみらい大学ロゴマークは、「交流・繋がり・伝統」のイメージでデザインされています

フォーラム



▲「nest」にて実施された講座での、受講者同士による交流時の一コマ



▲地域資源として眠っていた醤油倉庫をリノベーションし、多目的スペースとして再生した「nest」

人材が織りなす、未来の循環

よさのみらい大学は、学校教育法上で定められた正規の教育機関ではなく、行政による未来に向けた人材育成事業です。「与謝野町全体をキャンパスに見立て、学びを通して新しいモノ

のコンセプトのもと、町内事業者とともに産業振興により与謝野町の魅力を向上させる政策の「与謝野ブランド戦略」があります。これらの戦略的プロジェクトを、効果的かつ円滑に作用させる基礎を担う施策として、学びと交流による「人づくり」の場として「よさのみらい大学」を平成29年度に開始しました。

ヤコトを発見し、未来を描き行動する『人』の育成」を事業コンセプトに、4年制大学の構造に倣った形態で運営しています。

多くの方に見識を広げる機会を提供する「リベラルアーツコース（一般教養課程）」、総合戦略の各種プロジェクトとの連携を踏まえた「YOSANOブランド戦略 ビジネス学部（専門教養課程）」、地域と行政が一体となり、住民視点によるまちづくりの礎を構築する「地域づくり学部（専門教養課程）」の、1コース2学部です。講座は、それぞれの特性に応じた内容で構成され、リベラルアーツコースを事業全体の入り口講座とすることで、受講者の窓口を広げ、各学部講座に繋がるように組み立てています。また、講座ごとに受講者同士の交流を主目的とする時間を設けるとともに、受講者にとって有意義な時間となる雰囲気づくりを心掛けています。

こうした創意工夫は、行政だけではなく民間による力が大きく関係します。本事業は、民間運営による行政の事業ですが、本町の現状を理解し、本町の未来を考え、「町のためになる」ことを第一とする民間事業者と協働で実施することを重視しています。その結果、行政立案の事業構想を自由に発展させ、本町の未来を担う人のニーズに応える企画の実現に繋がりました。事業を開始した平成29年度は、受講者

数が延べ900人を超え、新規受講者の割合も講座ごとに約30%増となりました。また、当該事業のような講座形式の事業で最も懸念される「一度限り」といった継続性の課題においても、多くの受講リピーターを獲得する結果となっています。

これを受け平成30年度事業では、前年度以上に幅広い層が集いやすいオープンでフラットな場づくりと事業展望を踏まえた運営をすることで、事業開始から約半年で与謝野ブランド戦略の農工商連携による地場産品とキッチンカーを活用する移動販売といった新たなビジネスが芽生えてきています。

本町では、今後も「人が育ち、仕事が生まれ、地域が発展する」みらいの設計図の実現に向けて、各種プロジェクトを一貫性のある大きな枠で結びつけ、与謝野を織りなす人が育む地域内循環による「与謝野町の、住民による、未来のための『まちづくり』」を推進していきます。

与謝野町 企画財政課

※商助…企業・事業所が地域への貢献に努力すること。企業・事業所の「自助」は経済活動を通じて収益を維持・増加することであることから、与謝野町では環境や福祉・教育・男女共同参画など様々な分野での「地域貢献」を表すため「商助」という言葉を第一次与謝野町総合計画から使用し継承している。

町村

ご当地キャラじまん

Vol.45

特産品だけじゃない！

文化・歴史を身にまとして観光大使！！

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、東ブロック（北海道・東北・関東）からピックアップ。

東ブロック



北海道むかわ町

埼玉県川島町

茨城県河内町

PR特命参事

むかろん

北海道むかわ町



3月27日生まれた女の子。血液型はメロン型。頭にクビナカリユウがかかりついていても気がつかないほどおっとりした性格。特技はみんなを笑顔にすること楽しいことを探すこと。生干ししゃもが大好物。

2016年、合併10周年を記念して、町内の小学生から公募して誕生した町公認キャラクター。翌2017年には、着ぐるみも発表されました。顔は、甘くて美味しい「ほべつメロン」、頭をかじっているのは穂別地区で見られた「クビナカリユウ」。特産品むかわ野菜の「レタス」の形をしたポシエットには、町自慢の「生干ししゃも」が入っていて、お気に入りのシャツには、春になると町内一面を黄色いじゅうたんへと変える「たんぼぼ」が描かれています。「むかろん」は、町の産業振興課と地域経済課の両方に所属し、PR特命参事の役職についているので、町内外での町と町特産品のPRに大忙しなのだとか。「むかろん」誕生とともに制定された「町民憲章」の「自然・心・産業・あいさつ・笑顔・元氣・未来・希望・挑戦・進歩」のキーワードを胸に活動を続けます。

かわち丸

茨城県河内町



河内町イメージキャラクター

河内町を町内外に広くアピールし、イメージアップを図るため、「かわち丸」が、突然、姿を現したのは、2015年2月。顔が「お米」、体が「レンコン」で、腰には「あじさい」のベルトと、全身で町特産品をPRしています。そして、「このキャラクターはなに？」と不思議がられるインパクトの強さと親しみやすい表情や名前が特徴です。町のPR動画「かわち丸が行く」シリーズでは、かわち丸が町内を歩き、町の新たな魅力を発掘・発信しているほか、毎年11月に開催される町の文化祭「かわちフェスタ」等、町のイベントには積極的に参加するので、子どもにも大人にも大人気です。未長く愛されるキャラクターを目指して日々努力を重ねながら、町内だけでなく、町外へも進出し、認知度アップのためにがんばっています。



年齢・性別不明の人間でもない動物でもない謎の生物。温厚誠実な性格で、みんなを笑顔にすることが得意。子どもたちの笑顔が大好きなので、泣き顔を見るのは苦手。好物は河内町産のお米とレンコン。

かわべえ・かわみん

埼玉県川島町



かわべえは、川島町の豊かな自然を愛し、町のことなら何でも知っているグルメなおいしいちゃん。かわみんは、川島町の豊かな自然とおいしい農産物が大好きな元氣いっぱい女の子で、かわべえの孫

「かわべえ」写真左は、マスコットキャラクターのデザイン公募で誕生し、2010年11月23日、農業商工祭でお披露目されました。町特産品の「いちじく」をモチーフとして、郷土料理「すったて」を作る時に使う「すりこぎ棒」を持ち、「すったて」を入れるお椀をはいています。名前は、川島町の「かわ」と、江戸時代お蔵米として川越藩に献上されていた由緒ある特産品のお米（米IIベ）に由来しています。そして、かわみんは、町制施行40周年を記念して、2012年に誕生したキャラクターで、こちらもモチーフは「いちじく」です。名前は、やはり町名の「かわ」と、みんなに愛されるキャラクターになってほしいという思いから「みん」をつけて、「かわみん」となりました。いつも仲良くふたりで町内外のイベントに参加しては、町の知名度アップに貢献しています。

今回は、中ブロック（北信・東海・近畿）からご紹介いたします

随 想

電車から一歩足を踏み出すと空気が何か清々しい。広告看板のない駅と昔ながらの雰囲気が残る駅舎。改札を過ぎると微かに香る潮の香り、そして、高麗山の新緑が訪れる人を出迎えます。何処となく特有の瀟洒感を醸し出している町。

大磯町は、神奈川県中央南部に位置し、南は相模湾、北は高麗山をはじめとした大磯地塊の丘陵地帯で、総面積は17・23km²。都心から約1時間という距離にありながら、歴



随 想

歴史と文化が薫る 湘南発祥のまち

～さあ、大磯で君の物語をはじめよう～

おおいそ 神奈川大磯町長

なか さき ひさ お **中 崎 久 雄**

史・文化や海と山に囲まれた豊かな自然と調和した町です。

明治期には、1908年日本新聞社の避暑地ランキングで軽井沢をしのぎ堂々1位。湘南発祥の地、海水浴場発祥の地として、多くの名士が別荘や居宅を構え、歴代8人の内閣総理大臣が住んだ町。今も避暑地として栄えた別荘文化の行まいが残る、まさに「湘南の奥座敷」です。

【旧吉田茂邸と明治記念大磯邸園】

平成21年3月に焼失した旧吉田茂邸を国県や全国の皆さんの協力により再建し、一般公開を開始した平成29年は年間10万人超の来場者を迎え、町全体が活気に溢れ返る賑わいを見せました。

さらに、明治150年を記念する国の事業として、立憲政治の立役者である初代内閣総理大臣の伊藤博文の旧邸である滄浪閣を中心に、隣接する旧大隈重信邸、旧陸奥宗光邸、旧西園寺公望邸跡(旧池田成彬邸)の一角を「明治記念大磯邸園」として整備することが決定しました。平成30年には施設の一部が記念公開され、町内外から多くの方々が訪れました。完成時期は未定ですが、新たな文化・観光の拠点として旧吉田茂邸との相乗効果による交流人口の増加を期待しています。

【大磯港賑わい交流施設】

歴史・文化とともに町の象徴であ

る「海」。明治18年に日本で最初の海水浴場が、初代陸軍軍医総監であった松本順により照ヶ崎海岸に開かれました。今は少し離れた場所に移っていますが、湘南界限では「駅からいちばん近い海水浴場」として賑わっています。

その海水浴場に隣接した大磯港を国土交通省の「みなとオアシス」に登録し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせ、平成32年の開設を目指して準備を進めています。いわゆる港版の道の駅です。採れたての海産物を堪能できるだけではなく、地場産の農産物もふんだんに扱い「町の食の特産物」を発信するとともに、さらなる賑わいと、訪れる方々との交流を生み出す施設を目指しています。

【子育てで選ばれるまち】

歴史や自然といった町の良いところを知っていただいた後は、この町に住んでみたいと思ってもらいたい。当町では、保育料等の第二子以降の無料化、病後児保育事業や認定こども園の誘致、県内初の取組である朝の子ども居場所づくり事業など、子育て世代の経済的な負担軽減などのニーズに応じた施策を展開しています。今後も、当町を選んでいただいた子育て世代の方々が安心して暮らせるまち、「子育てで選ばれるまち」を目指し、子育て施策の充

実に努めていきます。

【健康寿命の延伸と終活ケア】

もう一つ、忘れてはならないのが「健康」です。健康寿命の延伸を目指して取り組んでいる「おあしす24健康おおいぞ」は、「地域のなかの気軽に行ける健康サロン」として多くの方々に親しまれています。また、「アンチロコモ教室」や「ロコモイル」などのロコモ予防対策事業は、産官学連携事業として世界保健機関(WHO)が視察に訪れるなど、世界的にも注目されています。

また、これまで町を支えてくれた方が高齢世代を迎えます。そのような方々が安心して余生を暮らせるために、自身がお亡くなりになった後をケアする、いわゆる終活への支援も考えています。

このような取組をさらに推し進め、すべての方々が健康で豊かに暮らせるまちを創り上げていきたいと思えます。

【おまぐせ】

今年新しい時代に突入する節目の年です。これまで先人が築き上げてきた歴史・文化、そして、大磯の誇りを次世代へ伝え遺しながら、新たな一歩を踏み出し、すべての世代の誰もがいきいきと暮らせる、住んで良かったと思えるまちづくりを目指していきます。

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

2階には広さと設備が多様な、大小4つの
ホール・会議室。高い機能性を持ち、さま
ざまな演出が可能です。会議・研修、パー
ティーなどに幅広くご利用いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



☆カジュアルレストラン「ベルラン」：ランチタイム11:00～14:00 / ティータイム14:00～17:00 / ディナータイム17:00～22:00 (21:30ラストオーダー)
☆和食処「さいから」：ランチタイム11:30～14:30 (14:00ラストオーダー) / ディナータイム17:00～22:00 (21:30ラストオーダー) ※「さいから」は土、日祝日休

客室のご案内	SINGLE ROOM シングル 119室	DOUBLE ROOM ダブル 12室	TWIN ROOM ツイン 18室	週末・祝日の 宿泊ご利用は 特別サービス (最大20%割引)	
	和室もございますのでお問い合わせください。(禁煙ルームもご用意しております。)				

お電話でのご予約・お問い合わせは WEBからのご宿泊予約は、特別料金(部屋数限定)がございます。 **全国町村会館** 検索

全国町村会館
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号

- ※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。
- 全国町村会館へのアクセス
 - ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 - ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
 - ・タクシー東京駅から約20分

